

かんごだより



現在、熊本市医師会看護専門学校（熊本市）の学生さんが、不安と緊張を抱えながらも懸命に実習に取り組んでいます。熊本地震は当然のことながら、学生さんにも大きな影響を与え、実習計画の変更を余儀なくされました。私たち同様、学生さんたちのなかにも、避難所で生活し、そこでの育児、国家試験に向けての勉強…いままで以上の苦勞と向き合っている方がいるようです。何より、実習施設の被災に伴い、国家試験受験要件の臨地実習の場を失ってしまいました。そこで私たちは、将来ともに働く仲間である学生さんの支えになりたい、この苦難を乗り越えて国家試験に合格して欲しいとの思いから、全実習を引き受けることになりました。更に、院長直轄“採用・定着プロジェクトチーム”である「看護管理研修生」と共同し、仕事と学業の両立をしている第2看護学科の3年生を対象に、実習最終日に「茶話会」を開催しました。この企画は学生さんにサプライズや感動を与えたのみならず、互い（学生&私たち）を知る機会にもなりました。

これからも看護師を目指す学生さんが、「実習にきてよかった」と思える環境づくり、学生さんを大切な仲間としてとらえることのできる風土醸成に向けて取り組みます。そして、今こそみんなで看護の素晴らしさを学生さんたちに伝えていきましょう。（臨地実習指導者会：浅井 栄）

近未来、
共に働く仲間の成長を
サポートします。
臨地実習指導者会

災害発生時に 必要なこと



画像は放射線技師の千葉さんから頂戴しました。



動ける
防災マニュアル作成中
検査室合同勉強会



検査室は看護師だけでなく臨床検査技師・放射線技師・内視鏡技師・事務の方々との協働が不可欠な部署です。患者さんの急変時や災害時など垣根を超えて協力し合う体制が必須となるため、看護部教育理念同様“ともに学び教え合う”精神で、合同勉強会を適宜開催しています。今回（6月23日）は熊本震災の経験から「動ける防災マニュアルを作成する」をテーマに、「協働する上で災害発生時に必要なこと」をKJ法に基づいて意見を出し合い、課題を見出ししていきました。このような手法をはじめて経験する参加者もいましたが、われらがリーダー橋師長の説明や看護師のファシリテートで各部門の意見をまとめることが出来ました。

「安全確保」「人命救助」「情報収集」「情報共有」という共通のキーワードが挙がり、そこから“「情報収集」「情報共有」をどのように行うのか、具体策を煮詰めていく必要がある”という課題を導きました。今回の勉強会は時間の都合で課題の抽出で終わりましたが、次回の合同勉強会で「動ける防災マニュアル」完成に向けて具体策を検討する予定です。（検査室：中島 理子）